

2 地方創生の推進

～ウィズコロナ時代の新たな地方創生～

新型コロナで顕在化した課題

- 新型コロナ危機は、過度に進行した「密集・密接・密閉」を避けて、人と人の距離を保つ「分散」がもたらす価値に気付かせるなど、東京一極集中をはじめとする従前からの日本社会が抱えていた課題を改めて顕在化させた。
- また、人との接触機会の低減により、家族や社会とのつながりの重要性を再認識させられ、加えて、自然と共存する持続可能な地球環境への意識を高めることとなった。
- こうした新たな価値観を前提とした新しい社会においては、
 - ・ 開放的で快適な環境の創造、
 - ・ リモートワークなどの新しい働き方やデジタル技術を活用した教育を可能とする情報基盤ネットワーク、
 - ・ 豊かな自然環境に囲まれた生活や働き方、地域課題を解決するための地域への関わりなどが求められる。
- 一方で、日本が持続的に発展し続けるためには多様なイノベーションを生み出す知の集積や集合も必要であることから、分散か集中の二者択一的な選択ではなく、「適切な分散」と「適切な集中」をうまく組み合わせた「適散・適集社会」の創造が求められる。
- 本県では、このたび新たな総合計画「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」を策定し、「適散・適集社会」のフロントランナーとなるよう、関連施策を推し進めていく。

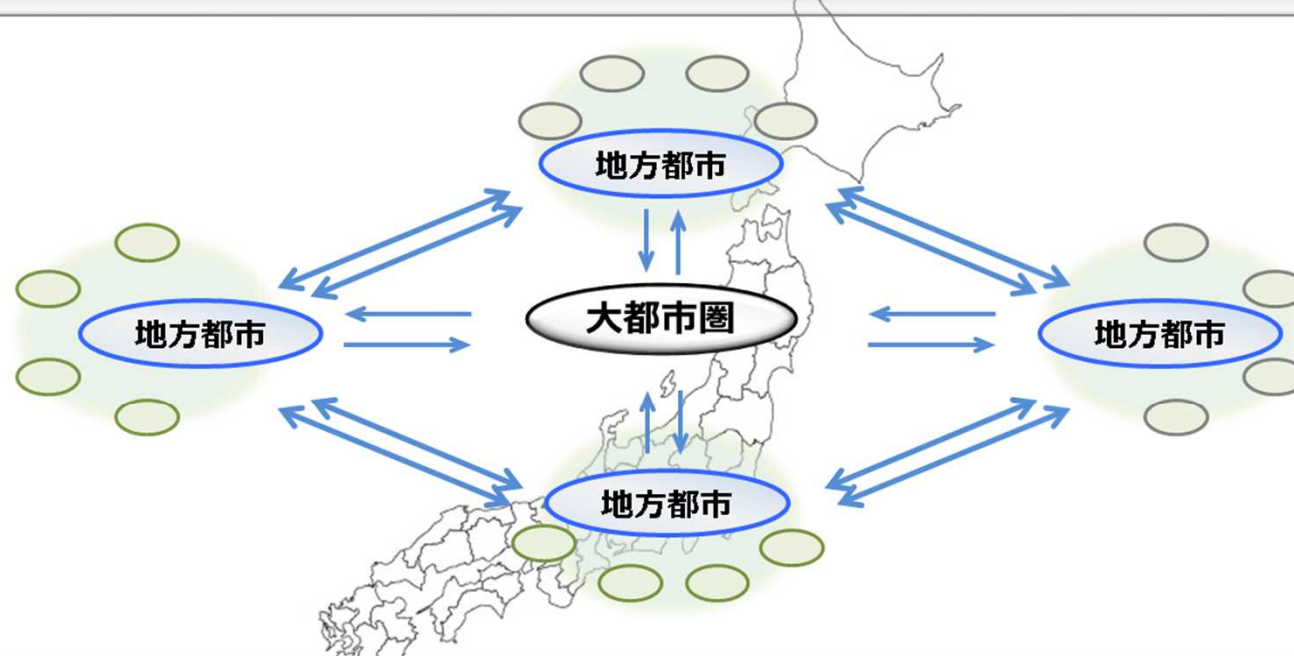
2 地方創生の推進

～ウィズコロナ時代の新たな地方創生～

適散・適集社会

ウィズコロナ時代の新たな地方創生

- 人と人の距離を保つ分散の大切さ ⇒ 「開放的で快適な環境の創造」
- テレワーク等の急速な浸透 ⇒ 「デジタル技術による空間的制約の緩和・新たな時間の創造」
- 《一方で》 多様なイノベーションを生み出す「**知の集積や集合**」も必要



日本が持続的に発展し続けるためには、「適切な分散」と「適切な集中」をうまく組み合わせた『**適散・適集社会**』の創造が求められる。